

# 北陸石仏の会々報

第 11 号

平成7年8月3日発行

編集発行

北陸石仏の会 (日本石仏協会北陸支部)

代表 藤村 善雄

〒939-13 富山県砺波市太田一七七〇 尾田武雄方  
電話 〇七六三一三二一―二七七二  
振替 〇〇七四〇―二二―二一九七四

## 八尾の道しるべ

平井 一雄

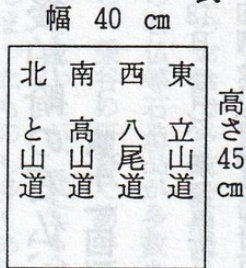
森清松氏の『富山の道しるべ』(B5 150ページ 平成七年四月自刊)が発行されました。富山県の道しるべ七十一体、道祖神十六体を研究された労作です。

ところが残念なことに八尾町の道しるべが取り上げられていません。ここでは私が大沢野町から八尾町黒田の親戚へいく途中で見かけた道しるべを紹介します。

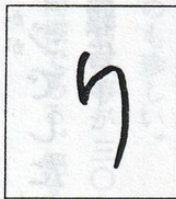
場所 八尾町深谷字長山

神明社前地藏堂の右脇

写真①表



写真②裏



① 表面

写真②のりのような記号は意味のない模様と思っていました。梵字手帳を見ていたら「り」のような梵字があり、地藏菩薩を意味する種子「カ」であることを知りこれに違いはないと思いました。



② 裏面

道しるべは、ふつう地藏様や観音様の石仏に右〇〇道、左〇〇道と刻んだものが多いのですが、この道しるべはまさに地藏菩薩が石に宿り旅人の道案内と道中安全を祈願しておられる道祖神のお姿ではないでしょうか。

(一九九五・六・二三)

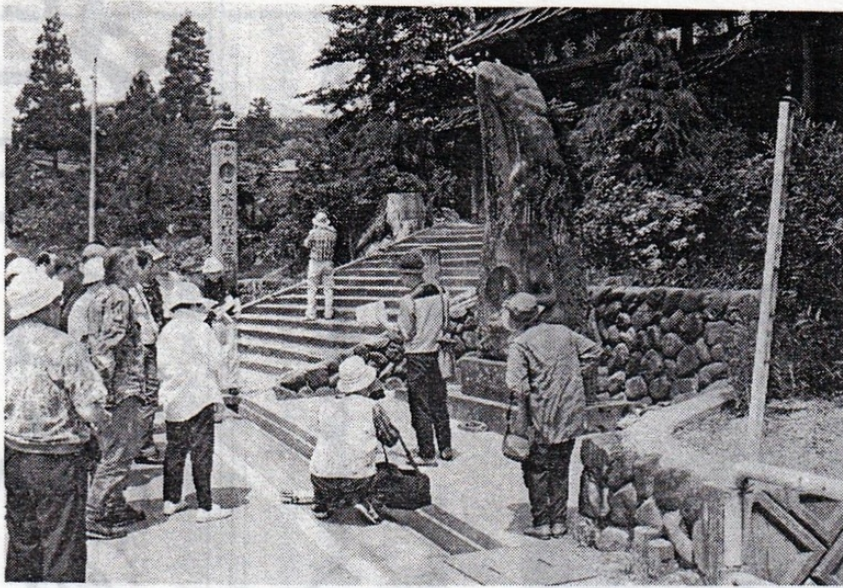


# 越後柏崎の石仏、ナジでした?<sup>いかが</sup>

## ― 第十一回例会報告 ―

去る6月18日(日)、新潟県石仏の会中越地区見学会に便乗して  
本会第十一回例会が新潟県柏崎市で開催された。

当日は素晴らしい石仏探訪日和の晴れ。9時30分に柏崎市立博物



館前に集合した

「精進の良い」

参加者は総勢41

名。うち北陸石

仏の会からは15

名の参加であっ

た。

今日の見学

コースは新潟県

石仏の会会長で

ある阿部茂雄氏

から計画して頂

いたもので、柏

崎市から隣町の

高柳町へ約20キ

ロを車で移動す

る。当地方の石

仏のバリエー

ションを会員諸  
氏に堪能頂きた  
いとこの趣旨であ

る。案内役でも

ある阿部氏のガ

イダンスを聞い

た後、参加者は

それぞれ車に分

乗、13台の車行

列はまずは第一

地点の柏崎市安

田地区の道祖神

を見学に向かう。

なにしろ長い車

行列、途中迷子

になる車もあっ

たけれど、どう

にか全車無事到着。ここから以後の移動は短距離なので安心。

柏崎の道祖神信仰の一つの特徴に「耳神」がある。安田の道祖神

もそうで、縁結びの神とともに耳垂れ(中耳炎)を治す神としても

信仰されている。

次の見学地点は30基以上の石仏群が境内に安置される「石仏の

寺」清瀧寺。もともと集落にあった石仏が開発などで行き場を失い、

このお寺に集まった。二十三夜塔、庚申塔、巡拝塔をはじめ珍しい

淡島大明神や黒姫大明神の丸彫像が目を楽しませる。また門前には





4メートル近い角柱の大随求陀羅尼塔、後生車、弘法大師塔などが建ち、参加者のカメラのシャッター音があちこちから聞こえてくる。昼食は近くの不動滝(善根)の下で微かな水飛沫を頬に感じながらとってもらおう。ここにも不動明王像をはじめいくつかの石仏が祀られており、石仏見学会の昼食場所としては申し分ない。

午後のコースは、浄興寺の一石六地藏から開始。3メートル近い自然石に見事な六地藏が浮き彫りにされている。せっかくだからこの前で全員集合、記念写真をとる。

この後、佐之久の双体道祖神(女陰の隠し彫り)や西行法師道標、さらに木喰仏「西国三十三観音」像を安置する安住寺に立ち寄りながら、今日の最終地点である高柳町磯之辺へ向かう。

磯之辺は黒姫山の6合目辺りにある山村で、標高500メートルはあろうか。カーブの続く細い坂道を13台の車は喘ぎながら上り、漸く集落へ到着。そこには黒姫山の主尊である如意輪観音石像を祀るお堂があり、その脇には「級長戸辺命」をレリーフにした風神像や白山大権現像が建つ。とりわけ風神像は参加者の関心を集めたよう、しばらく人だかりが絶えなかった。最後に山の神像(二神並立)のある磯之辺の鎮守十二社を見学、本日の全行程を無事終えることができた。

参加頂いた皆さん、柏崎の石仏、ナジでした?

(渡辺三四一)

第11回例会出席者

- 小竹一夫 大野猪策 猪谷 勇 猪谷春恵 五艘和子 京田千鳥
- 柳沢栄司 佐伯安一 中島照子 尾田武雄 南 金三 斉藤善夫
- 島倉千春 島倉 巖 前田英雄 他新潟県石仏の会 26名

〈本の紹介〉

第十一回、柏崎例会に参加した際に、早速柏崎市立博物館で三冊の本を購入することが出来た。(写真集 ふるさとに拜む)高橋一廣・三廣 永原栄一著は好評で売り切れとの事で購入出来なかった。

●柏崎の石仏(石が語るもう一つの歴史)  
第二十回特別展展示図録兼市内石仏調査報告書  
柏崎市立博物館 発行

●柏崎の道祖神

柏崎市石造文化財調査報告書 第一集  
柏崎市立博物館 発行

●フィールドワーク叢書① 『石仏のまち』を歩く

柏崎石仏探検ガイド 阿部茂雄著

1. 序章
  2. 探検編
- 阿部流石仏を楽しむ方法
  - いざ石仏のまちへ

市街地を歩く I・S・V

鱒石谷を往く A・B・C・D

鶺鴒谷を往く A・B・C

米山街道裏表 A・B

北部方面 I・II

以上五方面に分類され、各地区、各集落毎に探索し易いように記述されている。適切な解説と美しい写真が添えられて読むだけでも楽しい。コラム欄も十一あり、石仏探検に必要な知識が得られるようになっていく。巻末には石仏の形態と名称、年表、筆者紹介があり、これを手にとり石仏を探索すれば、充分に石仏の魅力とこれに関する知識も修得出来る格好のテキストである。

著者、阿部茂雄氏は新潟県石仏の会会長で、教職生活中に石仏に興味を覚え、以来二十数年間調査研究を続けて居られ、日本石仏協合理事でもある。著書に『野の仏に視る』目で見ると『背広のポケットに納まる手頃な大きさである。』(柳沢)

柏崎市立博物館 発行  
柏崎市緑町八一三五 Ⅷ(〇二五七)二二一〇五六七



## 北陸石仏の会第十二回例会案内

今回の例会は新潟を含めた、古代の越の国の中央官庁が在った武生市で開かれるのは意義深いものがある。

一六四五(大化元)年大化の改新により武生に国府がおかれた。以後一六九二(持統六)年越の国が越中・越後に分割される迄、武生は府中と称して守護・国主が君臨していたのである。このため国分寺・国分尼寺があったのをはじめとして、神社・仏閣が多く建立され繁栄したのである。現在でも神社八十二、仏閣一六〇ヶ寺の多さである。

幾度かの戦乱や火災によって焼失を繰り返したが石造品は多く残っている。

層塔、宝篋印塔、板碑、石灯籠、石碑、五輪塔、笠塔婆、石仏、狛犬、台座、石龕其の他室町時代を中心に、現代迄の石造品について会員の研修を戴き度い。

珍しい「田の神」もみつきり、武生市としては初めての石造品の研修に公開出来る。

今回は武生市の旧市街のみだが、旧村部や付近市町村には、良質の笏谷石のお陰で多数の石造品が残っており、全国的にも鎌倉時代以降の石仏等石造品が多数あるのも珍しい。

先年の一乗谷の研修で笏谷石製の石仏等が三〇〇年余を経過して剝落が目立ったが、武生も全く同様である。銘文の読みとれなくなってしまうものも多くある。

平成七年七月一日刊行された一八五一(嘉永四)年府中全町家順記によればその当時より石屋として四軒の登載があり、石工の伝統があったことがわかる。笏谷石は日野川の舟便で武生の入口迄運搬できたのであり、その舟付き場は最近迄残っていた。川奉行がいた事でも知ることが出来る。帰り舟では米を積んだことである。歴史のある街武生のすばらしい巨大な寺々を研修して戴くことを切望してやまない。会員が武生では一人ですので、手落ちや不行届きの点はあらかじめおゆるし願ひ度い。(文責 北村市朗)

月日 平成七年九月三日(日) 雨天決行

時間 集合 午前十時四〇分(武生市役所前)

解散 午後三時四〇分 武生駅前

日程 武生 室町時代の石仏めぐり

## 一、北府不動尊

三十体余の不動尊と(田の神)がある

## 二、国分寺(天台宗)

西国三十三観音巡りと四国八十八ヶ所巡りの寺並びに善光寺のお砂踏みができる。

## 三、引接寺(天台眞盛宗)

室町時代の層塔・笠塔婆・三十三観音の石仏・地藏菩薩の石仏(二〇八cm) 不動明王の石仏(二二三cm)・石大仏

・他

## 四、妙国寺(日蓮宗)

一石五輪塔・笠塔婆・犬の供養塔



五、総社大神宮

時宗二祖他阿上人が(一二九〇)正応三年頃・平泉寺の僧兵に襲撃された時のこの神宮の「遊行上人縁起絵巻」国宝の模写が拜殿に四枚掲額あり

六、正覚寺(浄土宗)

宝篋印塔、燈籠・一石五輪塔・石造門・善光寺堂・他

七、龍泉寺(曹洞宗)

府中初代藩主本多富正公の菩提寺で富正公の五輪塔があり、歴代の墓がある

八、龍門寺(曹洞宗)

織田信長の居城・五輪塔他石造品がある

九、末広神社

庚申講が残っている。猿像もある

十、窓安寺(天台宗)

室町末期の地藏菩薩(一三三cm)と不動明王(一四二cm)・宝篋印塔・梵字の石塔

二、上総社神宮

ここは等身大の珍しい漆塗りの石仏があるが秘仏で公開していない

三、宝円寺(曹洞宗)

前田利家公の母の宝篋印塔と桃山時代の父親の石像がある。類形板碑があったが今はみあたらない

三、紫式部像

三〇〇〇坪の公園で像は文化勲章受章者の圓鍔勝三氏の製作である。公園は全国でも珍しい「寝殿造公園」で平安時

代の雅やかな雰囲気漂っている

尚昼飯はこの公園の近くの「亀や」で越前そばを食べます

◎列車の場合

○行き 富山発 八時三十六分

武生着 十時二十分

小浜発 八時四十四分

武生着 十時三十七分

○帰り 武生発 十六時二十七分

富山着 十八時九分

武生発 十五時五十八分

小浜着 十七時五十六分

◎参加費 一、〇〇〇円(資料代含む)

◎申込 はがきで次の事項を記入の上左記まで(電話はだめ)

〒切 八月二四日(木)

①住所・氏名・電話・車の有無

〒九九三九一三

富山県砺波市太田一七七〇

尾田 武雄 気付

北陸石仏の会

TEL 〇七三―三二―二七七二



## 〈石仏紹介〉



## 呉羽山峠茶屋の頬欠け地蔵 富山市茶屋町

昔、富山へバクチに来て、大負けをして帰る途中の男が、腹立ちまぎれに峠の地蔵に石を投げ付けた。地蔵の頬が欠け落ちたがそのまま帰宅して寝たが、歯が痛み出して一晩中とうとう眠れなかった。よく考えて見たら地蔵様のたたりと気が付いて、早速地蔵様まで戻り峠茶屋で飴を買って、その飴で元どおりに貼りつけて無礼をお詫びしたら、歯の痛みが止まったと云う話が伝わっている。よく見ると頬に貼り付けたようなキズが見える。

(柳沢)

## ご案内

- 『日本の石仏』No.74で、石田哲弥さん(新潟県)が「阿弥陀信仰―その変遷と石仏―」、平井一雄さん(富山県)が「富山県中央平野の阿弥陀如来石仏」、尾田武雄さん(富山県)が「真宗地帯砺波地方の阿弥陀如来石仏」を発表。
- 富山市日本海文化研究所紀要第八号『富山湾岸における越前式笠付墓標分布調査報告書』が、京田良志(富山県)が代表で亀沢和子さん、酒井和さん、酒井初江さん、牧野たか子さんらが調査編集。
- 斉藤善夫さん(富山県)が、『富山史壇』第一一六号で「勝興寺の古国府へ移転の時期―鐘銘に寄拠して―」を発表。
- 「義賢名号」で、芹澤伸二さん(御殿場市)より、御殿場市中畑善龍寺に「天保十一庚子年十二月六日」の義賢行者の位牌があるとのことご教示を得る。また御殿場市、富士宮市にも義賢名号があるとのこと。
- 日本石仏協会では、会員を募集しています。年会費は、600円です。問い合わせ先〒112東京都文京区千石一―一九―四山口方 日本石仏協会事務局宛まで。
- 「北陸石仏の会々報」の原稿、写真を募集しています。どしどしご投稿ください。

## 新会員

久世文子(石川)、菊地武(京都)、若田俊一(岐阜)  
前田松代、深山節代、坂田和子、伊藤曙寛、矢内彰

(以上富山)